

人生勝敗の鍵(ルカ 7:1-10)

人はみな成功したいと願っています。負け組になるよりは勝ち組になりたいと願って、自分なりに工夫しながら頑張っています。しかし、その成功の前にクリスチャンの私たちは、真の成功とは一体何なのか。そして、勝ち組になる人とはどんな人なのか。それについてまずクリスチャンとして聖書を通して正しく理解しなければいけないと思います。そしてその理解の上に、その成功ある人生、勝者になるための鍵は一体何なのかということを教えられて、ぜひ勝ち組とし、勝者としての勝利の人生を歩んでいきたいと願います。

今日の聖書を見ますと、ローマの兵士で百人隊長、結構、偉い地位にある人なのですが、自分のしもべが病気になっていたのを、イエス様の方にユダヤ人をお願いしてイエス様が私たちのところに来て、そのしもべを癒してくださるようお願いをしました。それでイエス様がその近くまで行かれたときに、百人隊長が使いを送って、ここにおいでになるわけにはいきません。私が迎えに行くことも失礼になるくらいの方です。そして、みことばをいただくだけでも充分です。なぜなら、私も私の下に部下がいますけれども、行けと言えば行くし、来いと言えば来るようになる。命令通りになります。ましてや私のような人間、肉体的にもそういうことがあるとすれば、あなたのような方はおことばだけで充分ではないでしょうか。つまり、あなたはキリストなのだと。そのような告白をそういう言葉で表していました。それを聞いていたイエス様が驚いて、「イスラエルの中にもこのような信仰は見たことがありません」。本来、イスラエルがそのように信仰告白をしなければいけないのではないのでしょうか。なのに、いまだにイエス様は「イスラエルの中でもこのような信仰を見たことがない」と。イエス様に従っていく弟子たちからもこういう信仰はなかなか見たことがない。なのに異邦人の百人隊長の方からこの信仰告白を聞いてイエス様は驚いていらっしゃったという内容です。もちろん彼が百人隊長という偉い立場にいたからそういう告白ができたわけでもないし、逆に彼が異邦人だからイエス様に驚かれて祝福されることができないわけでもないし、言葉を変えますと、イスラエルの人、ユダヤ人だから勝者になるわけでもないという内容が、今日の聖書を通して確認できるものなのです。なので、今日の聖書を通して、人生の真の勝ち組、勝者は誰なのか。その鍵は一体何なのかについて、今まで私たちが漠然とイメージしていたその内容が全部壊れて、組み直されるような祝福のときになることをお祈りしたいと思います。ぜひ神のみことばが皆さんの考えを全部砕いて、自分も知らないうちに悪霊に操られている心と考えが全部砕かれて、暗闇の力が去っていく光のみことばの働きが皆さんの考えと心に届いて現れることを祈りつつ、メッセージに耳を傾けましょう。

1. まず人間の実体を正しく知らない

その人生勝敗の鍵が何なのかを正しく理解するためには、今日の聖書からも確認できることなのですが、第一に、そのためにはまず人間の実体が何かを正しく知らない、何が勝利なのか、誰が勝者なのか、正しく理解することはできません。

なので、クリスチャンの私たちにのみ許され、特権でもあります、人間の本当の実体、それが何なのか、そこに目を留めていただきましょう。人間というのは自然発生した存在ではありません。たまたまこのような人間の形になったわけでもありません。

1) 神のかたち(創世記 1:27)

人間というのは、創造主の神様によって造られた被造物であり、その中でも特別に神様と似た存在、つまり肉体は持っているけれども霊である創造の神様と通じ合う、交わることができるたましいを持つ霊的な存在として造られたものです。聖書はそれを神のかたちと言います。ほかの獣や動物、ほかの被造物とは根本から違う存在です。それを知らないと、人生の勝者の鍵、勝ち組になる鍵が何なのか見つけることができないでしょう。人間は唯一、神様と通じ合うたましいのある霊的存在、神のかたちに造られて、だから神の祝福、神の力が人間を通して現れるようになっているすごい、素晴らしい存在です。なのに、悪魔

サタンに騙されて、その神に背いて神のみことばを破って罪を犯した結果、死んでしまいました。その死というものは、たましいの死です。

2) 罪による死(ローマ 6:23、エペソ 1:3)

つまり、神様との関係が完璧に遮断されることになり、神様を離れることになりました。ローマ 6:23 には、「罪からくる報酬は死です」と書いてあります。エペソ 2:1 にも、自分の罪過と罪と中であって死んでいた者であって。これが人間の実体です。私たちが何をどうするかと全く関係なく、神様を離れて罪を抱えて結果、悪魔サタンの奴隷となり、自分では抜け出すことができない地獄の運命を抱えて生きる存在になりました。生まれながら神の御怒りを受けるしかない子らとして生まれることになります。皆さんが行動、行いをどうするかということと全く関係なく、身分そのものが悪魔の子として生まれることになりました。これが人間の実体なのです。誰も教えてくれる人はいません。残念なのは、教会で礼拝を捧げているクリスチャンでも自分がこのような存在だったということになかなか気づいていないのです。となると教会に通いながら聖書を見ることがすべてパリサイ派の方に流される道具になってしまいます。なんと恐ろしい話なのでしょう。ただ教会に通えば、礼拝に出て行けばいいという話ではありません。人間の実体を霊的に聖書が教えている通りに正しく知らなければなりません。それで人は自分では絶対に幸せになることができない不幸の運命に囚われて人生を生きる存在となりました。どれほど頑張れば幸せになれるのか、その質問が愚問になるわけです。何をすれば人生は変わるんだろうかという問いかけ自体が無効なものになる、そういう人生になってしまいました。神様を離れたことによって根本的に滅びの存在、地獄の子になってしまいました。

3) サタンの落とし穴、枠、滅びの運命

そして悪魔サタンは、人々がこの地獄から出られないように落とし穴を作ってそこにはめ込んだわけです。神様を離れたので神様を無視して神様を知らない自分中心になって自分がすべてであるかのように、つまりくのも喜ぶのも全部自分が中心なのです。そして、霊的な世界があるのに、霊的なことなどには全く無知になって、目に見えるもの、肉的なことしか分からないようにして、その罟、落とし穴に引き落とされました。そこに囚われることで絶対にこの運命から出られないのです。永遠の世界があることを知らないで、今生きているこの世がすべてであるかのように人生を生きるわけです。何かを評価して判断することも、全部がそれが基準なのです。自分と目に見える肉的なこと、この世界がすべてだと思って何かをしている限りは、絶対にこの運命から出ることはできません。そして、この落とし穴から出られないようにサタンは枠を作ってそこに閉じ込めるわけです。人々が宗教にのめり込むように。宗教にのめり込むようになれば、この落とし穴からは絶対出られません。偶像を拝むように、シャーマンに頼るように、場合によってはイデオロギーなどを作って、思想などに人々を閉じ込める、となると神様に会うことができません。この滅びの運命から出ることができません。そのように落とし穴にはめ込み、そして枠に閉じ込めることで、人々は滅びの運命の中を歩くように、悪魔サタンは人々を捕らえているわけです。だから人々は、みなが幸せになりたいと願っているのに霊的に壊れて、精神的に壊れて、肉体も壊れて、幸せになるために、成功のために一生懸命頑張るのに、結局はむなしい人生を送るしかない運命に囚われて、結局は一度死んで永遠のさばきに預かるようになるし、その呪いは次世代、子孫たちに遺産として受け継がれることになるわけです。終わりがありません。これが人間の実体なのです。私たちは目に見える問題だけに囚われて、それが問題だと思っているのですが、深い根っこの方に絶対解決不可能な霊的問題を抱えて、悪魔のしわざに囚われているわけです。これも知らないで多くの人がこうすれば良くなるだろう。あれを直せば、だから悪いんだよというように争ったり頑張ったりしていますが、結局、重荷になって疲れることだけなのです。これが人間の実体なのです。異邦人なのかユダヤ人なのか関係ありません。すべての人が、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができない。アメリカ人もアフリカ人もいいま戦争で苦しんでいる国の人々でも、平和な国で暮らしている人でも変わることはありません。違いなどありません。みなが同じ運命を抱えて生きるわけです。このことを知らない限りは何が人生の勝利なのか分かりません。だから、クリスチャンもお金さえあれば、社会的に成功さえ治めれば、家庭が安定すれば、それで幸せな人生、成功ある人生だとクリスチャンでも勘違いしているわけです。そして、少しでもそうでない場合には耐えられません。どうしたらこれを改善できるか、どうしたらこれを変えることができるか、そういうことばかり考えて祈りの課題も全部そういうことばかりなのです。何が人生の成功なの

か、失敗なのか、何が勝者なのか、負け組なのかに対しての整理がまだできていません。なぜなのでしょう。なぜ未だにそういうことに囚われてつまづいて試みにあっているのでしょうか。人間の実体を聖書が教えている通りに聞いていないからです。あるいは聞いたとしても認めていないからです。まさかと思うでしょう。特に自分は違おうだろうと思うかもしれません。「いま麻薬中毒者や刑務所に入っている犯罪人、精神病に入っている人等々には当てはまるかもしれませんが、私はわりと真面目に頑張ってきた者だからちょっと違うんじゃないか」と思うと、教会に通っていても全く力が現れないし、無気力のままの状態になってしまいます。キリスト教会は良い人を作るための団体ではありません。病気を治す集団でもありません。もちろん癒されますよ。しかし、それが教会が存在する理由でも礼拝が許されている理由でもありません。病気が治ってどうしますか。この人間の実体が分かっているならば、根本がそのままなのに嘘つきな人が少し嘘をつかない人間になったからといって何が変わるのでしょうか。離婚しそうになった人がまた仲良くなっておしどり夫婦になったからといって何が違うのでしょうか。皆さん、何を願って何を求めているらっしゃるのでしょうか。何を祈っているらっしゃるのでしょうか。だから、自分が勝ち組だ、勝者だという確信もないし、いつもそういうことで揺さぶられてフラフラするばかりなのです。人生の勝敗の鍵は、人間の実体が何かを正しく知り、心から認めるときです。そのときにそれが見えて来るようになります。

2. 人生の勝敗は人間的条件と無関係

となると二番目です。当たり前のことに、人生の勝敗は人間的な条件とはまったく関係ありません。

本当に実体が何か分かっているならば、それは人間が条件がどうなのかにによって変わるものではありません。

1) イスラエル、異邦人関係なく公平

イスラエルの人だから有利でもないし、異邦人だから不利でもありません。とても人格者だから有利で、性格悪い人間だから不利だということでもありません。なのに、クリスチャンがこれに目覚めていないわけです。人生の勝敗は、勝ち組負け組は、人間的な条件とは全く関係ありません。そういう意味で公平なのです。条件によって不満を抱いていたり、あるいは自慢したりするようなことは愚かなことなのです。なぜそうになってしまうのでしょうか。人間の不可能な実体がまだ見えて来っていないからです。本当に人間の実体、不可能な霊的な根本が何か分かっているならば、神様を離れてしまったことがどれほど不可能な恐ろしいことなのかが分かっているならば、人間的な条件などは全く関係ありません。今日の聖書からそれが証明されているのではないのでしょうか。イスラエルの人から見たときに、百人隊長であれ、植民地のいま支配している国の偉い人であれ、彼らが見たときには、異邦人、獣なのです。神の祝福とは全くかけ離れて関係ない、そういうものという見方をしているのです。実はいまもそれは変わっていません。だから、いまも人を殺すことがハエを殺すような感じでやっているわけです。いまも変わっていません。それほど自負を持っていたわけです。そのイスラエルの中にもこのような信仰は見たことがないのに、異邦人の中でこのような信仰が見られると。異邦人だから信じたわけでもないし、イスラエルなのか異邦人なのかという人間的な条件は関係ないということではないのでしょうか。そういう意味で人生の勝利と負け、成功と失敗に対して人間的な状況を取り上げて言い訳するような愚かな真似は今日限りやめてください。特にレムナントの皆さん、家庭環境がこうなので、自分はあまり才能がないから、頭悪いから、だから勝利できない、成功できない、勝者になれないという言い訳などはこれからは通用しません。それは悪魔に捕らわれる好都合になるだけなのです。人生の勝敗は人間的な条件とは全く関係なく、そういう意味でみなに機会は公平に許されています。

2) 学歴、財力、能力、性格、人格、出身、外見-ローマ 3:23

学歴があるから有利なのか、ないから不利なのか。財力があるから有利だろう。能力があるから、性格が良い人間だから、人格ある人だから、出身が良いから、外見、うわべが整っているのが有利だろう。そうでないから不利だろうと思うことは愚かなことなのです。なぜそう思うのでしょうか。なぜそれを言い訳にしているのでしょうか。なぜそれを自慢にしているのでしょうか。クリスチャンでもなかなかそこから抜け出せないのです。人間的な条件で有利な人は有利なりに抜け出せないし、不利な人は不利なりにまたそこから抜け出せないのです。クリスチャンなのに。人間の不可能な実体が本当に分かっているならば、そう

いうことは人生の勝敗にはまったく関係ありません。もう一度言います。すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができない。このことばの意味を分かっていると、世の中にキリスト教会が存在する理由も分からないし、自分自身が存在する理由も理解できません。だから福音宣教の方に導かれることがなかなか難しいのです。この人はこうだから、あの人はあだからということにみな引っかかるわけです。関係ありません。すべての人は、罪を犯したので、不可能な人間の実体そのままであり、霊的な根本を抱えて、自分の力ではどう頑張っても抜け出すことができない運命に囚われてることには間違いありません。

3) 高慢/落胆、安心/不満、比較/言い訳

だからさんざん申し上げましたように、人間的な条件が有利だから高慢になる理由もないし、不利だからといって落胆する理由もないし、人間的な条件が良いから安心する材料にはならないし、それが不利だから、それに不満を抱いて言い訳する材料にもなりません。人間的な条件が有利だから、それをもって他人と比較したりする材料ではないし、人間的な条件が不利なので、それ言い訳にするわけにもいかないものなのです。理解できたでしょうか。これが人生の勝敗の鍵を見つけるために、私たちが必ず整理しなければいけないものなのです。関係ありません。この人間の实体を本当に分かっていたら、人間的な条件は全く関係ないし無力なのです。通じないのです。いくらイスラエルだからといっても、イスラエルだから勝者になるわけではありません。いくらその人が真面目で性格の良い人、頭が切れる人間でも、それとその人の人生が変わることとは全く関係ありません。本当にそのように信じていらっしゃるのでしょうか。特にレムナントの皆さん、小さい時からこのことが心に刻まれないといけません。これが神のみことばというもののなのです。だから、人生の勝敗は、私たち人間の方に人間的な条件等々、どうのこうのと全く関係なく、そこから離れてキリストだけに勝利があるわけです。なぜなのでしょう。キリストだけが悪魔のしわざを打ち壊して、私たちの罪と呪いを完璧に壊して、地獄の運命を壊すことができる唯一の方なのです。なぜキリストがそのことができるのでしょうか。キリストは神様ご自身なのです。神の御子なのです。

4) Only キリスト、イエスはキリスト、ヨハネ 19:30

だから人生の勝敗は、どこにかかっているかという、私たちのどうのこうのではなくて、キリストだけにかかっているのです。Only キリストなのです。人生の勝利はどこにあるのでしょうか。皆さんのどこを見渡しても見当たりません。キリストだけにあります。そこに人生の勝利があるのです。Only キリストです。そして、幸いなことに十字架で死なれて復活なさったイエス様がそのキリストなのです。イエスはキリスト。ここに人生の勝利があるのです。その他にはありません。そして、そのキリストであるイエス様が十字架の上でおっしゃいました。宣言されました。すべてを完了したと。その十字架の上でのすべてを完了したという勝利の宣言、そこに人生の勝利があり、人生の真の成功はそこにあるわけです。今まで何を言い訳にして、どこで人生の勝利を見ようとしていたのでしょうか。全部下ろしてください。それを悔い改めると言います。それを全部下ろして、間違っていました。自分のどうのこうのでも、環境のどうのこうのでも、生まれた環境、家庭環境がああこうだ、自分は頭が良い悪い、才能があるない、それは人生の勝利と全く関係ない。なのに、いつもそのせい、言い訳ばかりしていました、ということを知って、自分の人生の勝利はキリストにあります。すべてを完了したと宣言されたその宣言にあります。ならば、私たちの方から人生の勝敗の鍵はどこにあるのでしょうか。

3. 人生勝敗のかぎは信仰

その勝利のキリストを信じる信仰に鍵があります。

イスラエルの中でもこのような立派な信仰を見たことがありません。立派な信仰はどんな信仰でしょうか。当時、誰もイエス様をキリストとして正しく告白する者はいませんでした。弟子たちでさえ、まだ時刻表になってないので。そういうさなかに異邦人の百人隊長が、あなたはキリストですと告白している場面なのです。びっくりです。あなたは勝ち組なんだよ。イスラエルは負け組なんだけど、異邦人のあなたこそ勝利者なんだよ。そのような宣言のような場面なのです。人生の勝敗の鍵は、そういう意味で信仰にあるわけです。義人は信仰によって生きる。条件ではなくて信仰なのです。

1) エペソ 2:8

エペソ 2:8 にも、「この恵みのゆえに、あなたがたは信仰によって救われたのです。それはあなたがたから出たことではなく、神の賜物です」。この信仰にこそ人生の勝利の鍵があるわけです。勝ち組の鍵はこの信仰にあります。

2) ヨハネ 3:16, 18

ヨハネ 3:16 「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者が、一人として滅びることなく、永遠のいのちを持つためである」。信じる人。その後、3:18 にはこう書いてあります。「御子を信じる者はさばかれない。信じない者はすでにさばかれている」。信じない者が負け組なのです。イスラエルという自負を持って、私は偉いよ。私は嘘をついてません。私は家族を養っています。私は真面目に仕事を頑張っています。国ために私は身を捧げていますと言って、それが事実だとしても、イエス・キリストを信じない者はさばかれて負け組なのです。家族のために、みなさんの周りの信じていない人々のために心から祈ってください。彼らの救いのために。なぜ祈らないのでしょうか。こういう内容を信じないからでしょう。いつどのように救われるかは神の御手にありますが、クリスチャンの私たちの気持ちが彼らをあわれむ気持ちにならない。家族だから。ただ血が通ってる者だから違うのでしょうか。さらにさらに溢れる思いをもって、血のにじむような気持ちで祈らないといけないのではないのでしょうか。

3) ヨハネ 5:24

ヨハネ 5:24 にも「まことに、まことに、あなたがたに言います。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わされた方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきにあうことがなく、死からいのちに移っています」。負け組から勝ち組に変わるのです。勝者になります。

4) マタイ 16:16-17

マタイ 16:16 「あなたは生ける神の子キリストです」。イエス様は驚いて「バルヨナ・シモン、あなたは幸いです」。それが勝ち組なのです。今日、異邦人にイエス様がおっしゃって宣言した内容と同じ内容なのです。このような立派な信仰は見たことがありません。イエス様が行けと言えば行くし、来いと言えば来る、つまりイエス様のみことばによって宇宙が動かされ、悪霊どもが、病魔の力が出て行くキリストなんですよ。そのような告白をしている百人隊長を見て、あなたこそ勝ち組なんだね。永遠のいのちはあなたのものなんだね。神様から選ばれて律法、聖書が与えられて、神の奇跡を見たにもかかわらず、イスラエルはそのような信仰がありませんでした。だからそういう有利な条件、ありがたいのですがその条件によって有利ではありません。神の恵みによって信仰を告白すること、その人こそ勝ち組、勝者です。

ならば、ここにいらっしゃる皆さんは、自分はイエス様をキリストとして信じているのか、受け入れたのか、そのことを吟味して、自分自身に問いかけて確認してみてください。皆さんの行いがどうのこうのとは関係ありません。本当にほかのところを見るといまだに未熟で、いまだにデタラメなところが多いかもしれません。しかし、イエス様をキリストと信じる信仰には間違いはないのでしょうか。ならば、条件がどうであれ、自分は勝者、勝ち組なんだと確信を持たないといけません。クリスチャンなのに、礼拝に通っているのに、この自負と確信がないのです。だから礼拝も行ったり来たり、聖書を見たり見なかったり、信者なのかどうか。なぜでしょうか。自分が勝者だという喜びと嬉しさ、感激、感謝がないからです。最近、パリでオリンピックがありました。そこでメダルを取った人々を見たでしょうか。メダルを取った瞬間、「どうしよう...」という選手を見たことがありますか。涙が出ます。その涙は内容が違います。悲しみの涙ではありません。みな嬉しくて嬉しくて喜びが爆発しています。なぜなら勝者だから。ただそのメダルは自分で頑張って手に入れたものです。クリスチャンの人生の勝者というものは、神の恵みによってです。私の条件とは全く関係なく、恵みによって信仰によって得られたものなので、その感謝は十倍百倍以上にならないといけません。自分自身の頑張りでもなく、自分の条件がどうのこうのとは関係なく、本当は地獄に行くしかないそういう者だったのに、キリストによって神様の恵みにより信仰によって与えられました。だから他の何かに一切こだわらないで、自分はずうずうしいかもしれませんが勝者なん

だ。勝利者なんだ。勝ち組なんだ。そしてオリンピックでも見たように勝者には必ず賞が与えられます。メダルが与えられます。トロフィーが与えられます。皆さんにもメダルがトロフィーが賞が与えられているはずなのです。まず第一に自分が勝者、優勝したという感覚が無いから、メダルが自分のものだという自信も感覚も持っていないのです。今日限り、人生勝敗の鍵は、イエス・キリストを信じる信仰にあることをしっかりと握って、ならば条件がどうであれ、自分は勝者、勝ち組なんだ。オリンピックどころか優勝して金メダルをいただいたものなんだという確信を持ってください。ただの励ましの言葉でも冗談でもありません。どのような冠が私たちに与えられているのか。

1. I ペテロ 2:9、I コリント 3:16、エペソ 1:23、マタイ 5:17、名ばかりでなく身分に伴う権威も。

I ペテロ 2:9「しかし、あなたがたは選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神のものとされた民です」。このような冠が皆さんに与えられています。冠があまり実感がなければメダルだと思ってもいいです。王である祭司という金メダルが皆さんに与えられているのです。それから I コリント 3:16、あなたがたは、聖霊が宿っている神の神殿であることがわかっていないのか。王である祭司、キリストと同じ称号が与えられ、神が宿る神の神殿というメダルが私たちに授与されました。エペソ 1:23 には、いま復活なさって世界福音化をなしていらっしゃる万軍の主、勝利のキリストのからだなる教会。どういう意味でしょうか。これからキリストは再臨のときにその姿を現します。しかし、聖霊を通してキリストのからだなる教会を通してキリストを現わすのです。この世に。皆さんはキリストの使節なのです。キリストのからだなる教会というメダルが与えられています。金メダル、銀メダル、銅メダルではなくて全部金メダルなのです。マタイ 5:17、あなたがたは世の光ですと。そういうメダルが私たちに授与されています。皆さんが頑張ったからではなくて勝者だからです。これは名ばかりの賞ではなくて、子の身分には権威が伴いません。皆さんがこの称号、このメダルにふさわしいことのために動くときにキリストの御名を呼ぶと悪霊が追い出され、暗闇が砕かれる権威が皆さんには与えられています。メダルには身分と権威が一緒になっています。分かりますか。そのメダルをどこかにしまっておいて、次の日からさっぱり忘れてしまうという人はいないですよ。どこかに持って行って自慢したり、恥ずかしながらも自慢したり、そういうもんでしょ。このようなメダルが、今ここで全部述べられません。これが代表的なメダルなのです。これを毎日見て微笑んで喜んで、「はあ、私、こういう賞もらったんだね。私、こういう人間なんだね」。言葉を全部総合すると、私を通して人々が生かされるためのいのちが流れでる出る者なんだ。それが私なのです。なぜそうなったのでしょうか。私たちは知らないうちに、恵みによってイエス様を信じることだけなのに、滅びの人生が終わり、勝ち組に変わり勝者にすでになりました。信じればいいのです。これはそうなったから与えられているメダルなので信じればいいのです。メダルが実感が湧かない人はトロフィーだと思ってもいいです。でもトロフィーよりはメダルの方がわかりやすいんですね。本当なのです。金メダルがあまりにも多くて、首が痛いぐらい多いのです。誰がでしょう。イエス・キリスト信じる人はみなです。人間的な条件と全く関係なく。イエス様が日本中、偉い人もすごい科学者も芸術家もいっぱいいる中で、レムナント教会で礼拝を捧げている、普段は自分のことが嫌で嫌で家のことが嫌で、そういう人間でもイエス様がおっしゃっているのです。このような立派な信仰を日本中で見たことがないよ。メダルはあなたのものだよ。ぜひ信じてください。特にレムナントの皆さん、どんな状況、条件なのでしょう。皆さんの考え思いがやられて、それが脳に刻印されて、悪霊が皆さんの考えと思いを捕らえて操っている、自分自身のことを神の子どもとして喜ばしく思うことができないように働いているわけです。その誘い込む悪霊をキリストの御名によって縛り上げ、このみことばに集中しないとはいけません。神の子どもなのに、信者なのに喜ぶことができないように、自負することができないようにされる。なぜでしょうか。さまざまな条件による心の傷を作って、悪魔、悪霊が今現在もその考えを捕らえて操っているのです。悔しくないでしょうか。神のみことばを信じてキリストの御名によって退ける、戦ってください。私は神の子どもなんだ。私は幸いなんだ。王である祭司なんだ。神の神殿なんだ。

2. 永久シード権-神の御用に用いられる先発選手

それから、勝ち組の確信を持って、特にゴルフなどで言いますと、その年、優勝した人は、次の年の大会すべてに予選なしで本戦に出る権利が許されます。それをシード権と言います。それは一年だけです。もちろん何回も優勝すれば永久シード権とかありますが、でも年をとるとなかなか自分で出られないのですが、そういうシード権というものがあります。皆さんがイエス・キリストを信じるその瞬間、身分が

変わっただけではなくて、それに伴って神の御用に用いられるように、ベンチスタートでもなく、予選などもいないし、先発選手として用いられるシード権が与えられます。しかも永久シード権。いつでもどこでも神の御用は何でしょうか。滅びの人々が希望へと移されること、死に捕らわれている人々がいのちに移される福音宣教、人のたましいを生かす救いの働き、これが神様の御用です。それを日本中、世界中で神様は行っていっちゃいます。その神の御用に予選なしで先発として用いられるシード権が永久に許されています。ぜひ覚えてください。

3. 使徒 1:7-8 を握って 14 の祈りへ

それを踏まえて覚えて、ならば、最後にこれを覚えてください。だからこうおっしゃったんだね。あなたがたはメダルが金メダルの者であり、永久シード権があるのになぜ余計なことを気にするのか。それはあなたがたは知らなくてもいいよ。Only 聖霊が臨まれると、これからあなたがたに聖霊の力が与えられ、聖霊の息が吹き込まれることになるので、それで神の御用に具体的に用いられることになるから、それだけに集中しなさいとおっしゃったのです。そのことばが自分のことばとして握られます。どんな問題があるのでしょうか。知らなくてもいいよ。まずメダルを見てください。そういうことで悩むような存在ではないのではないのでしょうか。金メダルの受賞者が。しかも永久シード権を持っているのではないのでしょうか。だから、それはあなたがたは知らなくてもいいよ。聖霊が臨まれると。ぜひ祈ってください。私は本当に勝者なんだという確信があるのに葛藤があるかもしれません。その勝者は間違いのないのですが、自分自身を見たときに勝者らしくないところがあまりにも多いのではないのでしょうか。悩まないでだからこそみことばに集中しなさいとおっしゃっているのです。だから集中が求められるのです。それで、らしくないと思っていたそれが全部変わって、私たちを私を成長させる道具になるのです。なのでらしくないということであまり葛藤を覚えたり、悩んだりしないで、逆にそれがあからこそ、なるほど、揺れない確信の上に立ってみことばに集中しましょう。皆さんの考え、思い、感情ではなくて。全部自分の考え、自分の感情、自分の思い、自分の計算なのです。神様がいらっしゃらない。それは神を信じないことなので、悪魔が自由自在に遊ぶわけです。みことばに集中しましょう。それでみことばが皆さんの考えに刻印されるまで集中しましょう。ぜひ皆さんを通して神様がなさること、それを夢見ながら、期待して祈っていきたいなとそう思います。なぜなら、ここにいらっしゃる皆さんは条件と関係なく勝者なのです。メダル候補ではなくてメダル受賞者です。永久シード権を持っている方々です。ぜひ自分自身を見直していただきたいと思います。悪魔に喜ばれる、そういう考え方を捨てて。

(祈り)

恵み深い父なる神様。ありがとうございます。私たちの思いと考えを古きもので握って操っている悪霊が、キリストの御名によって、神のみことばによって退けられることを心からお祈りいたします。人生勝敗の鍵が信仰にあることを固く握って、自分は勝者である確信を持って新しくすべてを整理してスタートできるように、それで神の御用に用いられる勝者としての道を歩んでいけるようにひとりひとりを祝福してください。イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。